第２回小平市農業振興計画検討委員会
【資料②-1平成２８年１２月２０日（火）】

基礎調査結果の中間報告

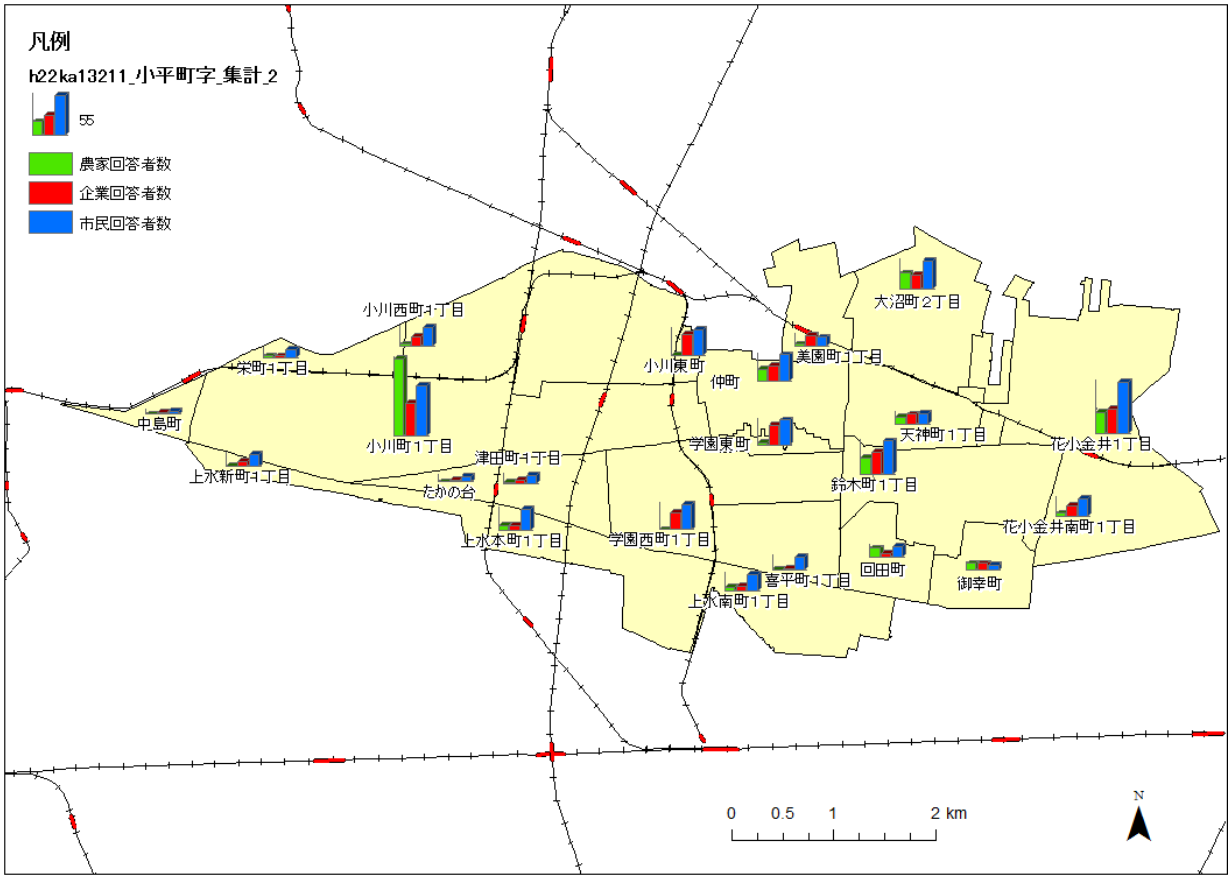
発表内容

1. 市民意識調査結果
2. 事業所動向調査
3. 農家意向調査
4. ヒアリング調査結果

http://www.city.kodaira.tokyo.jp

調査回収率

- 期間ー2016年10月1日～2016年11月30日の約2か月



詳細は【資料②-２】基礎調査結果の概要　参照

	回答数	回収率
市民意識調査	635件	31.8%
事業所動向調査	377件	37.7%
農家意向調査	294件	84.0%

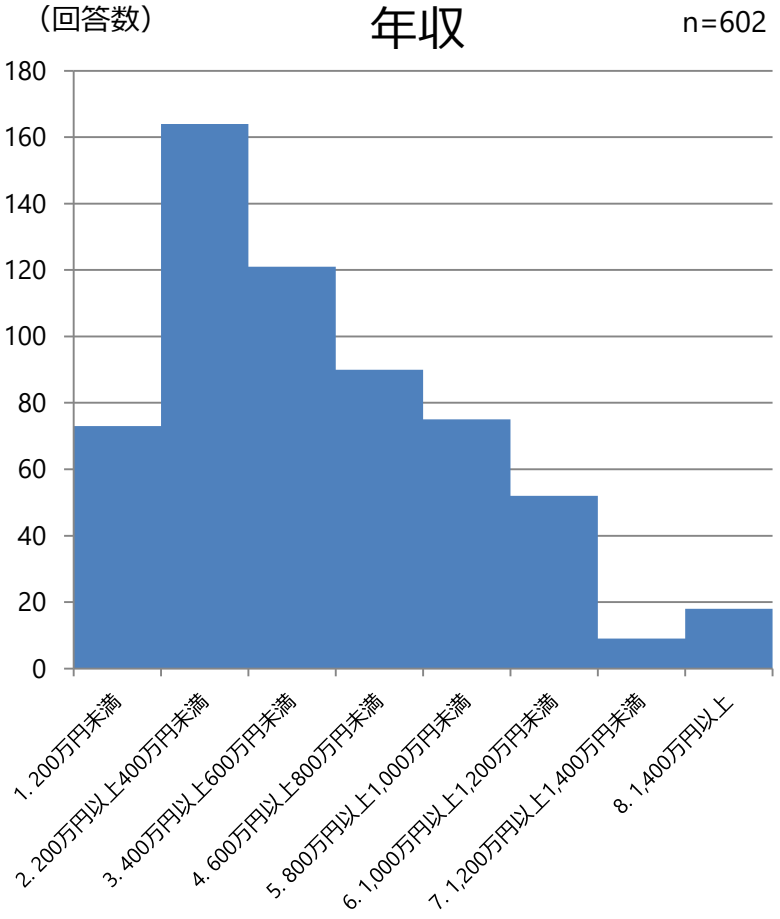
1. 市民意識調査結果

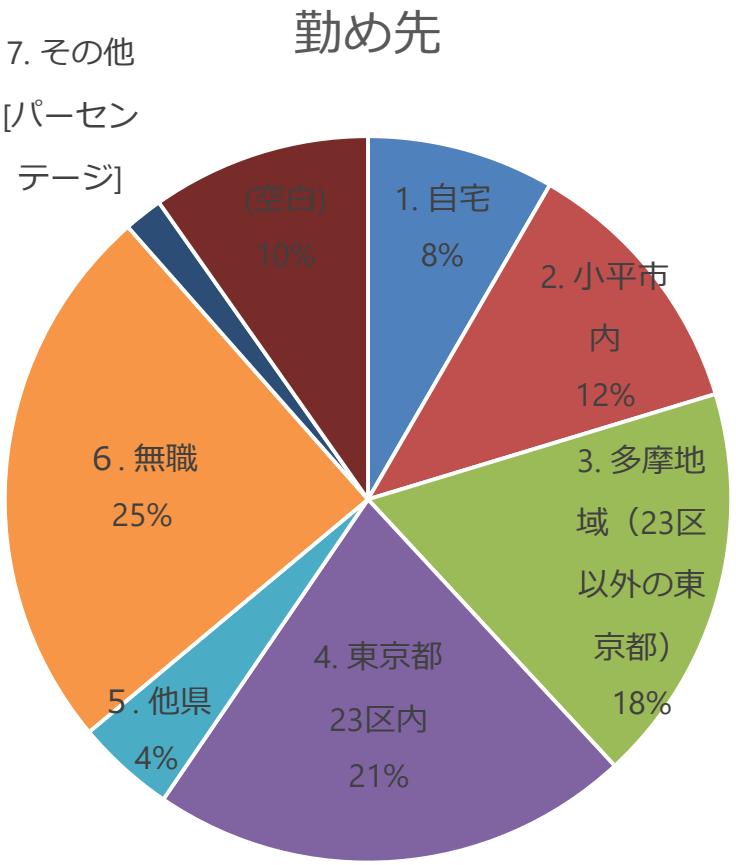
回答者属性

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
1人暮らし	1	9	6	9	13	10	25	73
その他		2	5	8	2	9	7	33
親子二世代	9	64	50	63	43	45	38	312
祖父母親子三世代	2	2	5	3	5	6	1	24
夫婦のみ		8	14	9	28	56	76	191
総計	12	85	80	92	91	126	148	635

- 親子二世代の核家族が多い
- 回答者の43%は60歳以上
- 家族構成は親子の2世代家族が49%、夫婦のみの世帯が30%
- 20年以上の居住者が43%

回答者属性



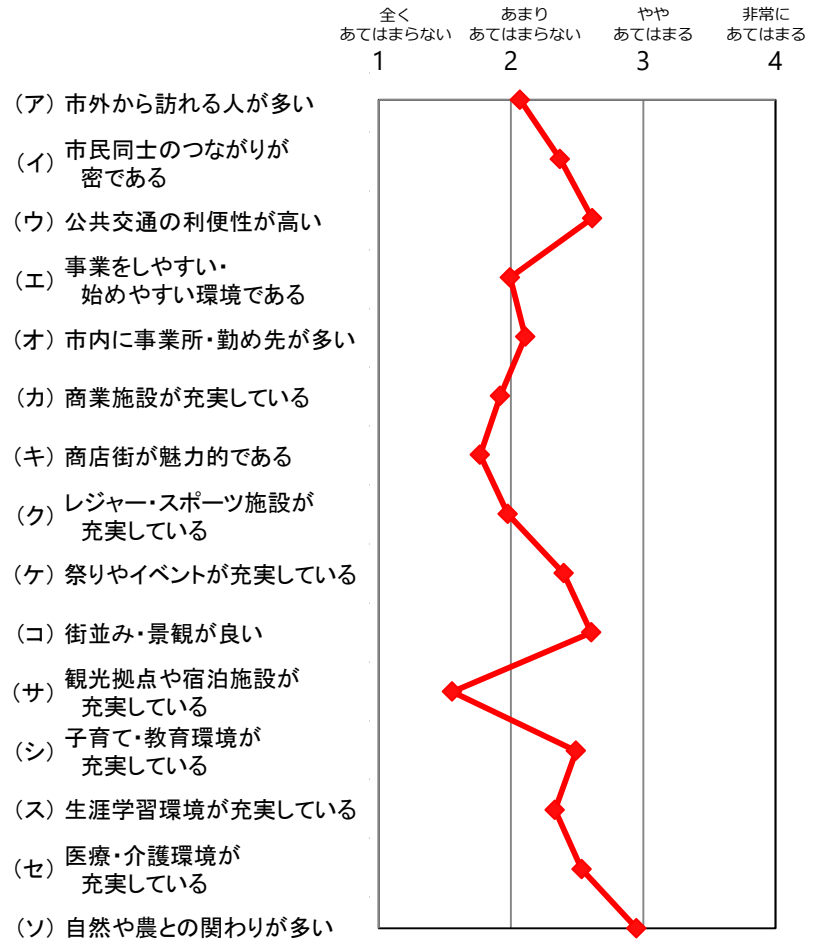


- 年収200万円以上～400万円未満が最多
- 就業者のうち、多摩地域で働いている人は60%

まちづくりの課題

小平市のまちの現状

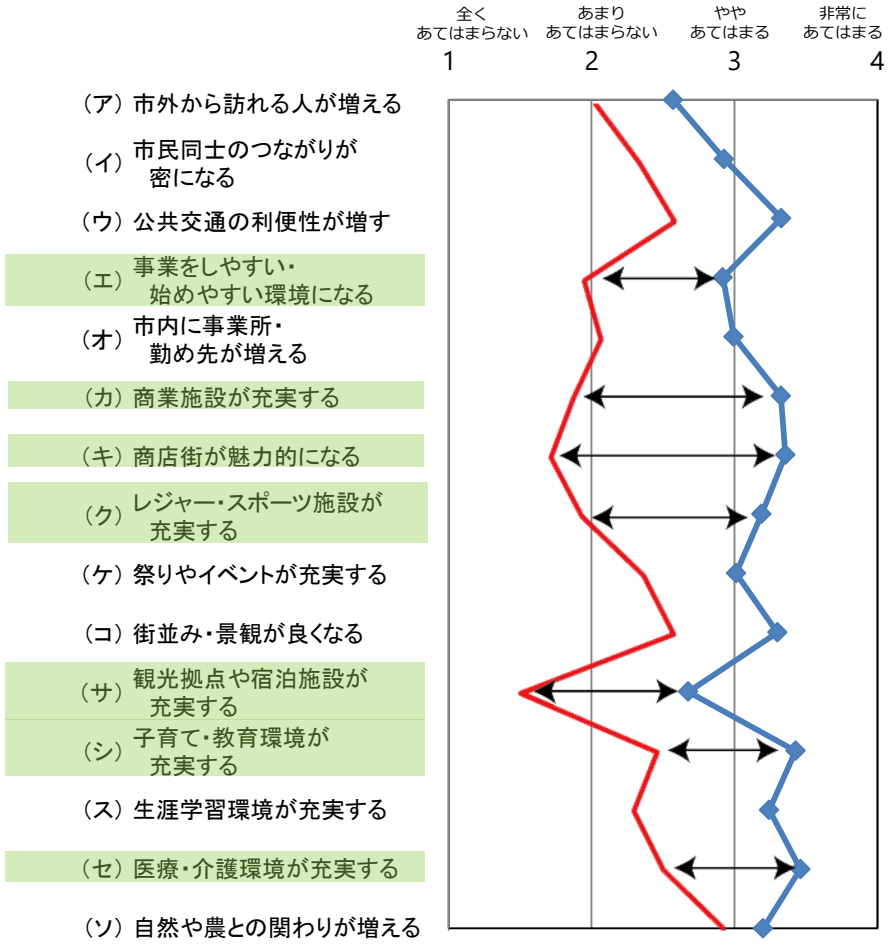
n=614



- 自然や農　→高
- 商店街の充実　→低
- 観光拠点　→低

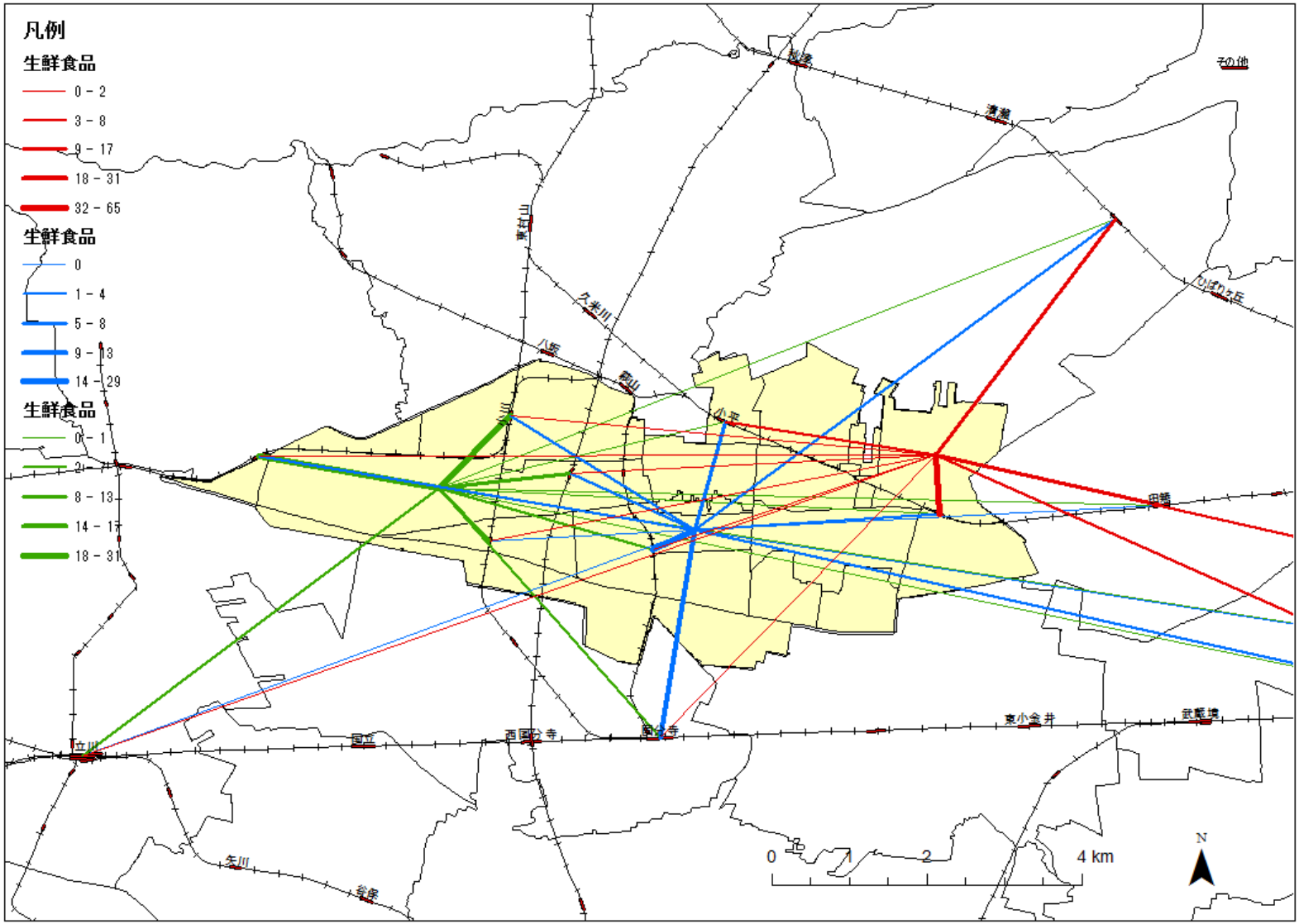
市民の暮らしを豊かにする変化

n=612



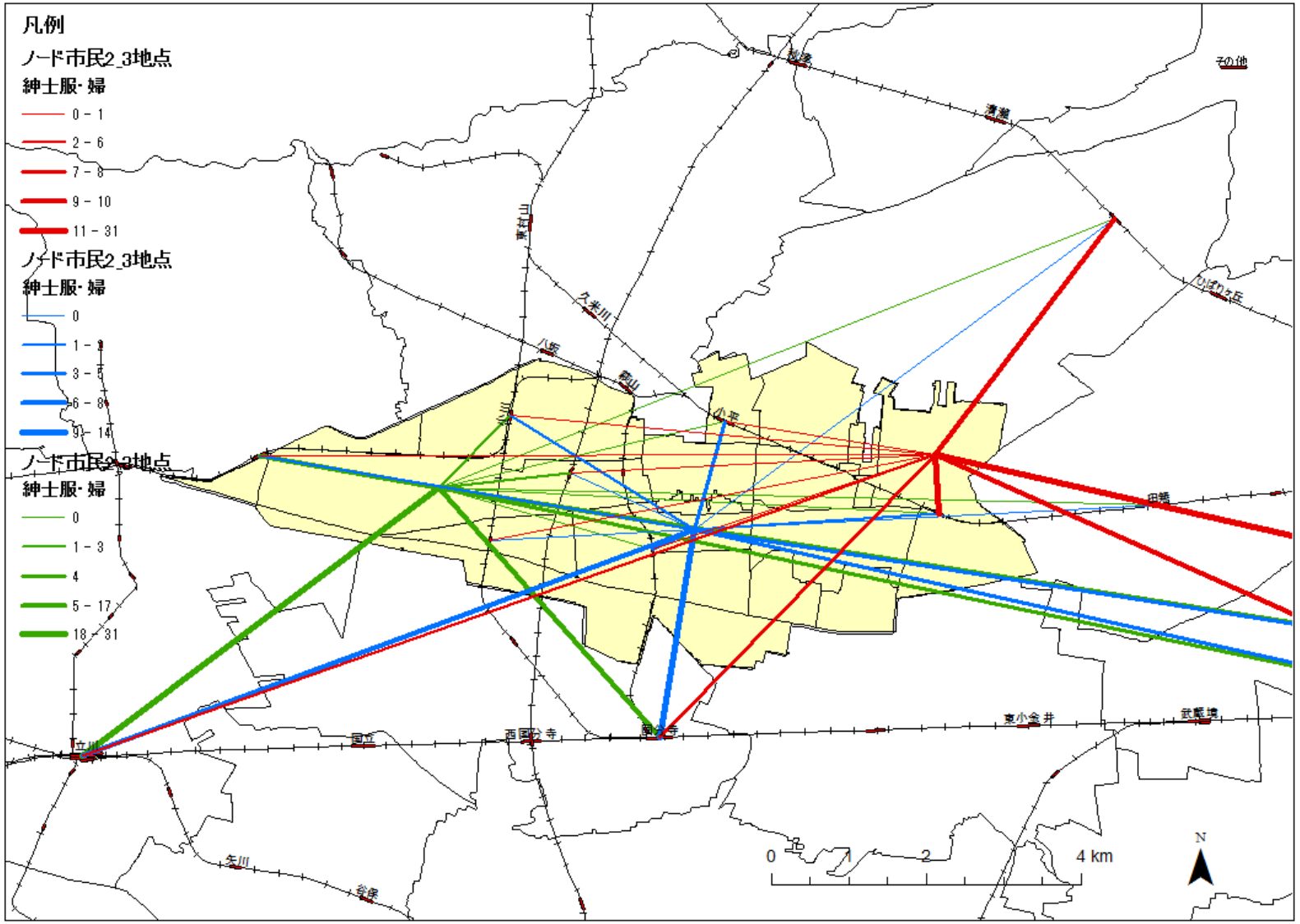
- 事業のしやすさの課題
- 商店街の改善の課題
- 観光拠点の課題

購買行動（生鮮食品）



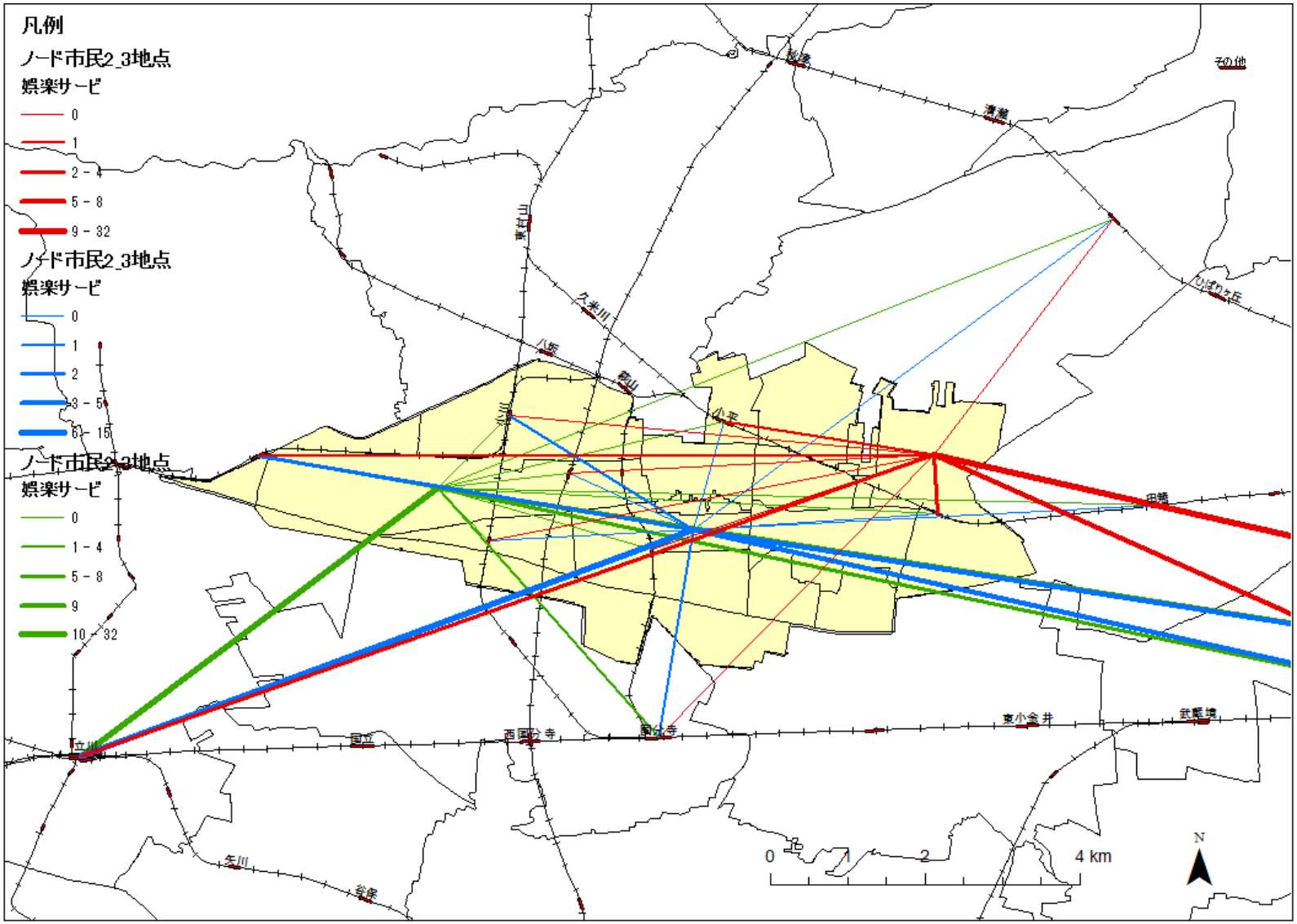
- 小平市内の身近な場所で購入
- 小平市東部の住民は新宿や吉祥寺でも購入

購買行動（服）



- 新宿や吉祥寺などの都心方面
- 立川や国分寺などの中央線沿線

購買行動（娯楽・レジャー）

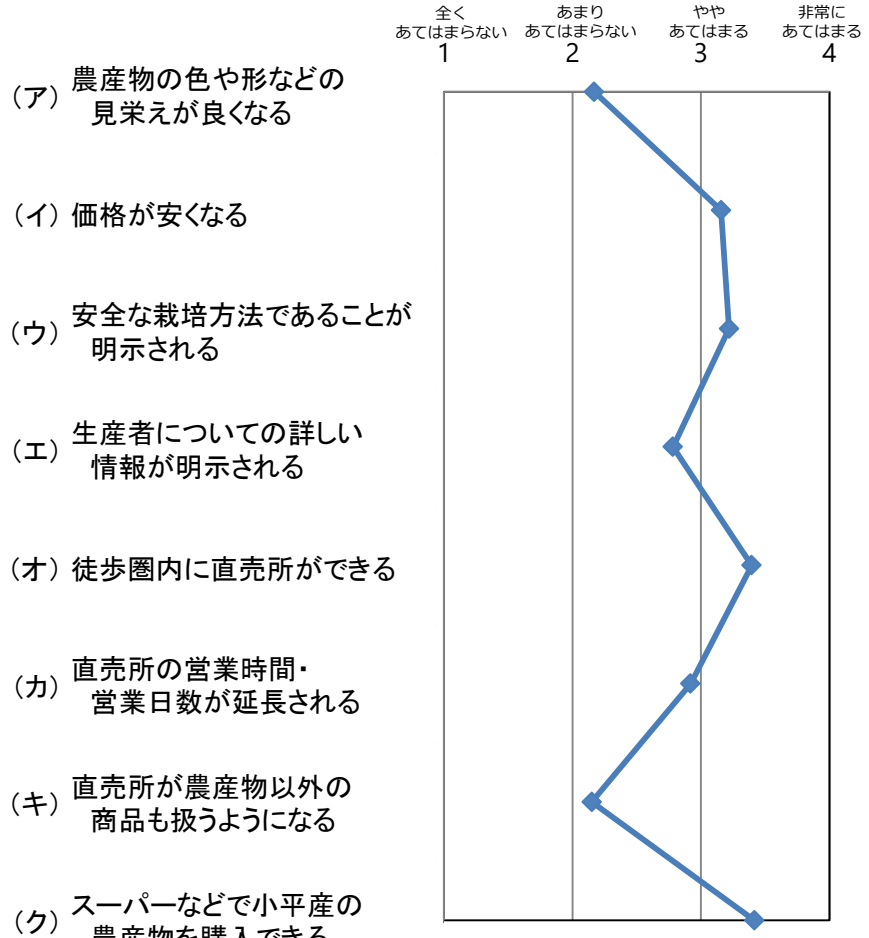


- 新宿や吉祥寺、立川などの中央線沿線
- 小平市内では相対的に消費されていない

市民と農業

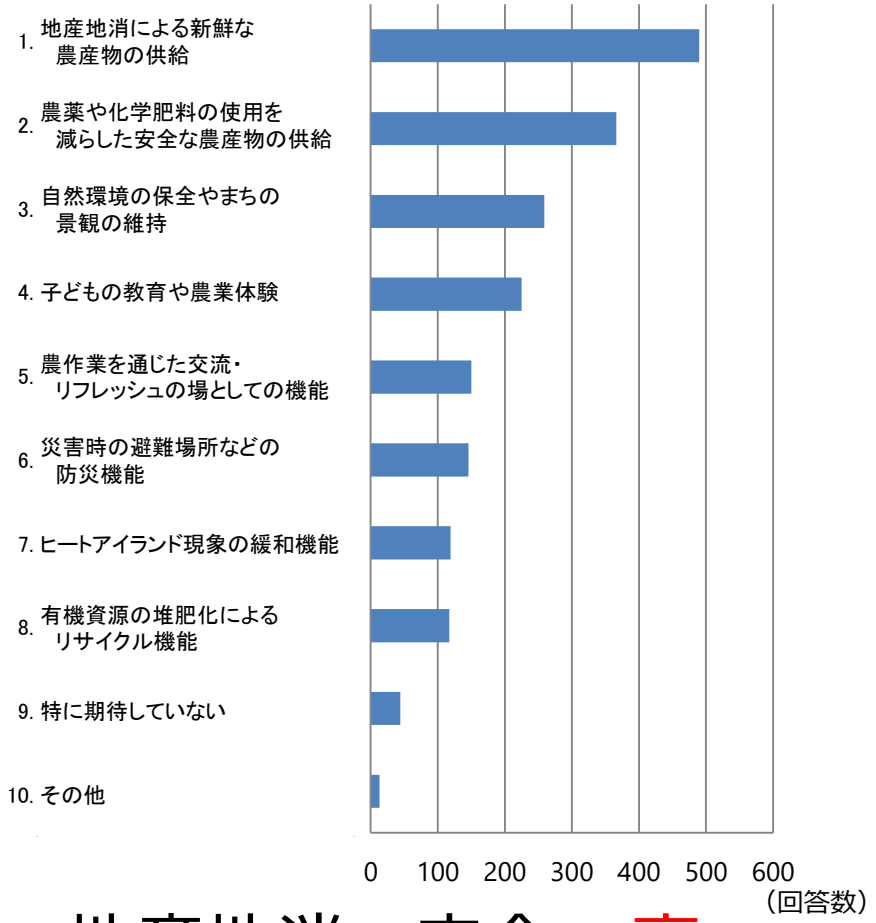
農産物購入条件

n=591



市内の農業に期待すること

n=613

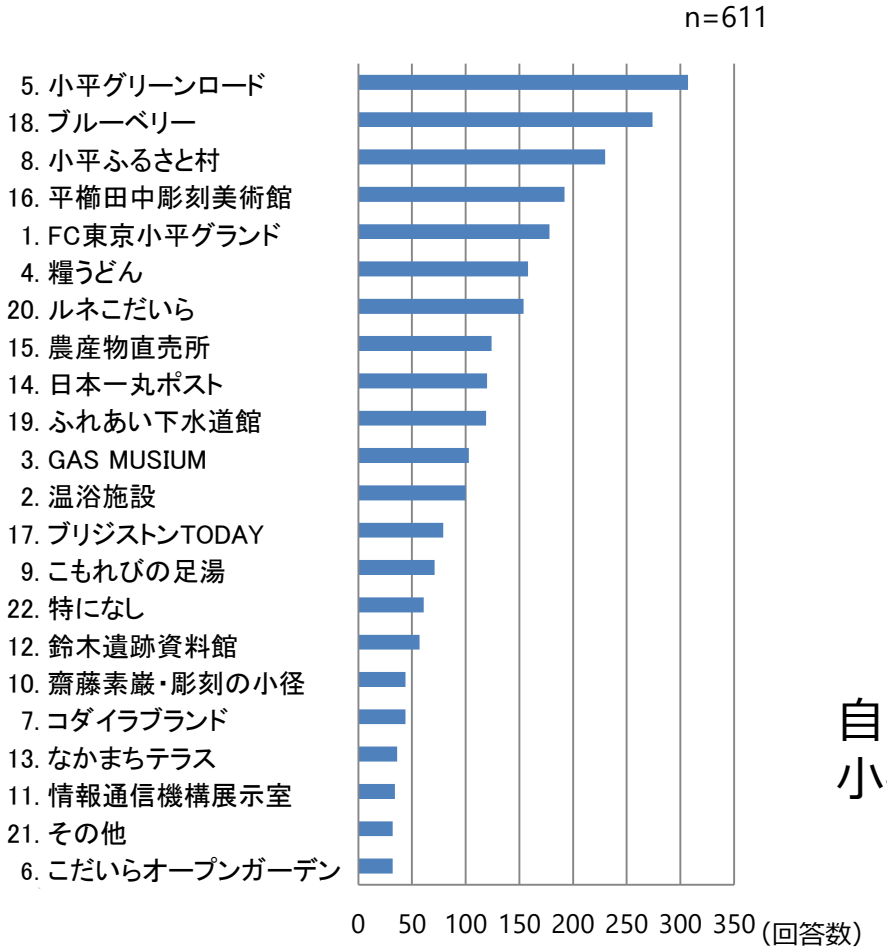


- 購入条件
  - スーパー、徒歩圏など身近な場所で購入希望

- 地産地消、安全 →高
- 自然環境 →高
- 農業体験 →高

観光の課題

PRしたい市内の観光スポット



自由記述回答から抽出した
小平市の観光についてのワードクラウド

- 食べ物の評価、玉川上水などの自然→高
  商店街の賑わいとPR→低

雇用の課題

雇用環境の課題×年齢性別	1. やりがいを感じられない	2. 専門的な資格・技能を活かせない	3. 安定した収入を得られない	4. 収入が少ない	5. 自分の都合のよい時間に働けない	6. 勤務時間や労働日数が多すぎる	7. 残業が多すぎる	8. 通勤時間が長い	9. 体力的な負担が大きい	10. 精神的な負担が大きい	11. その他	12. 特に課題はない	回答数
10代男性	0% 0	0% 0	0% 0	50% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	50% 1	100% 2
20代男性	7% 1	0% 0	7% 1	57% 8	0% 0	29% 4	21% 3	50% 7	0% 0	0% 0	0% 0	29% 4	100% 14
30代男性	0% 0	0% 0	7% 2	38% 11	3% 1	28% 8	45% 13	24% 7	24% 7	55% 16	7% 2	7% 2	100% 29
40代男性	19% 8	5% 2	5% 2	26% 11	5% 2	14% 6	26% 11	37% 16	12% 5	44% 19	5% 2	19% 8	100% 43
50代男性	15% 5	6% 2	6% 2	18% 6	6% 2	12% 4	15% 5	35% 12	21% 7	35% 12	3% 1	24% 8	100% 34
60代男性	3% 1	3% 1	20% 7	29% 10	3% 1	14% 5	0% 0	34% 12	26% 9	11% 4	11% 4	40% 14	100% 35
70代以上男性	7% 1	0% 0	7% 1	14% 2	7% 1	0% 0	0% 0	14% 2	0% 0	0% 0	7% 1	79% 11	100% 14
10代女性	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	100% 1	100% 1	0% 0	0% 0	100% 1	0% 0	0% 0	100% 1
20代女性	7% 2	4% 1	15% 4	37% 10	15% 4	19% 5	22% 6	41% 11	37% 10	37% 10	11% 3	19% 5	100% 27
30代女性	17% 6	6% 2	9% 3	40% 14	9% 3	17% 6	20% 7	40% 14	31% 11	31% 11	6% 2	9% 3	100% 35
40代女性	4% 1	9% 2	17% 4	26% 6	4% 1	4% 1	22% 5	22% 5	35% 8	39% 9	0% 0	30% 7	100% 23
50代女性	3% 1	3% 1	10% 3	32% 10	3% 1	10% 3	6% 2	13% 4	23% 7	26% 8	10% 3	29% 9	100% 31
60代女性	10% 2	5% 1	10% 2	20% 4	10% 2	5% 1	5% 1	15% 3	30% 6	35% 7	0% 0	35% 7	100% 20
70代以上女性	0% 0	33% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	67% 2	100% 3

- 収入、精神的な負担が課題
- 通勤時間の長さ→精神的な負担の理由の一つ

就労意欲

	1. 働きたい（正社員）	2. 働きたい（パート・アルバイト）	3. 働きたくない	回答数		1. 働きたい（正社員）	2. 働きたい（パート・アルバイト）	3. 働きたくない	回答数
10代男性	50% 3	33% 2	17% 1	100% 6	10代女性	33% 1	33% 1	33% 1	100% 3
20代男性	71% 12	18% 3	12% 2	100% 17	20代女性	56% 10	33% 6	11% 2	100% 18
30代男性	100% 1	0% 0	0% 0	100% 1	30代女性	13% 2	75% 12	13% 2	100% 16
40代男性	67% 2	33% 1	0% 0	100% 3	40代女性	6% 1	76% 13	18% 3	100% 17
50代男性	33% 1	67% 2	0% 0	100% 3	50代女性	11% 2	47% 9	42% 8	100% 19
60代男性	13% 2	25% 4	63% 10	100% 16	60代女性	3% 1	28% 9	69% 22	100% 32
70代以上男性	4% 2	32% 15	64% 30	100% 47	70代以上女性	3% 1	24% 8	73% 24	100% 33

※10代は18歳以上に限定

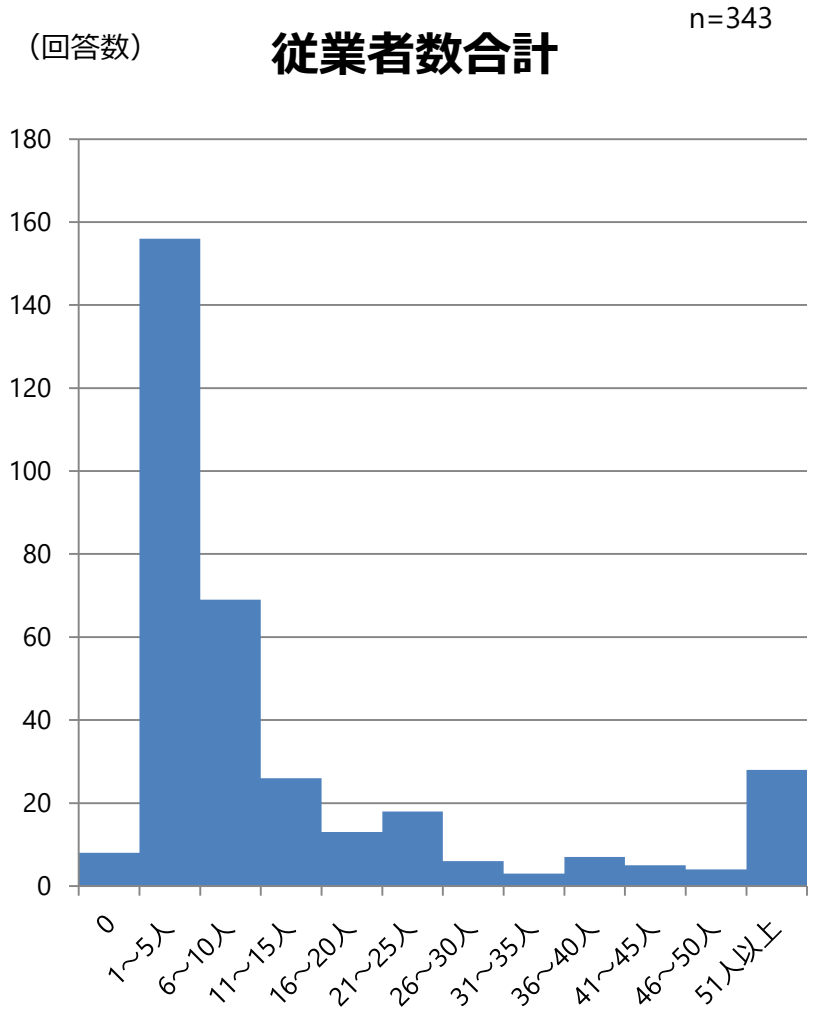
- 30代、40代女性の就労意欲
  - パート、アルバイトの希望
- 雇用の課題との関連
  - 近隣での就労を希望

市民意識調査まとめ

- 商業
  - 生鮮食品は近隣で多く購入されている
  - 市民は商業施設や商店街の充実を望んでいる
- 農業
  - 市民の購買希望と流通のミスマッチ
  - 体験農園などの農とのかかわり
- 観光
  - グリーンロードなどの身近な自然が評価されている
- 雇用
  - 働き方については年齢別、性別による意識差
  - 通勤時間の長さが精神的な負担になっている可能性

2. 事業所動向調査

回答企業属性

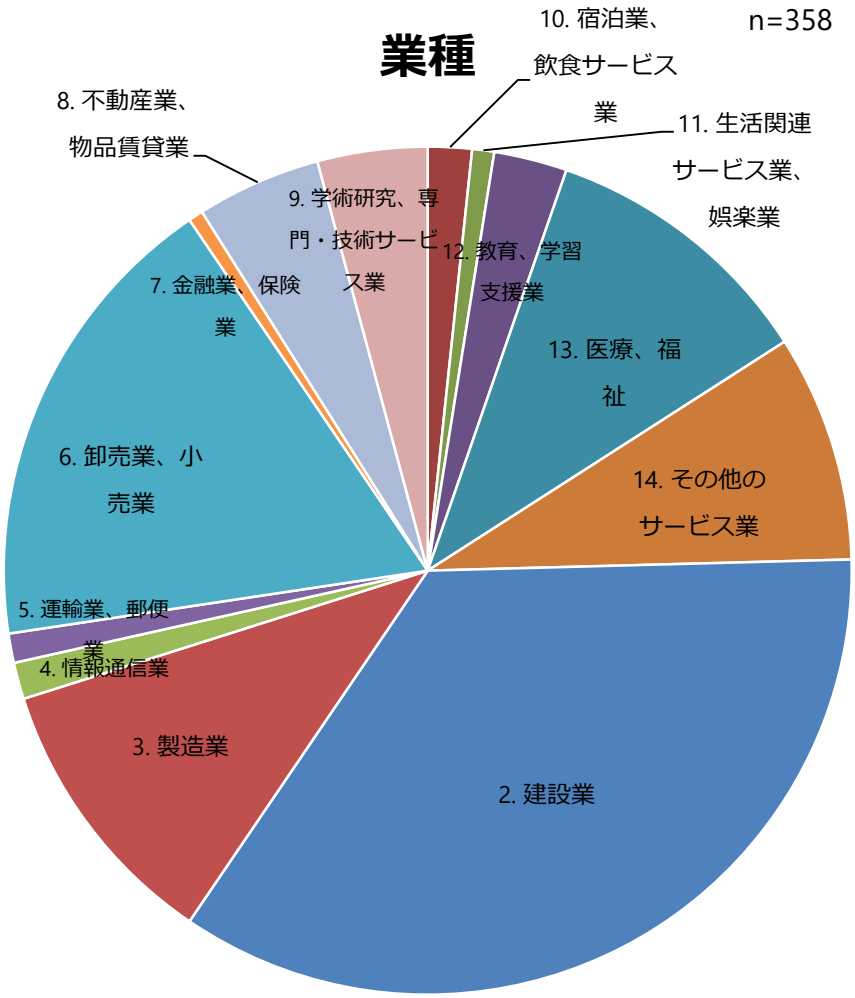


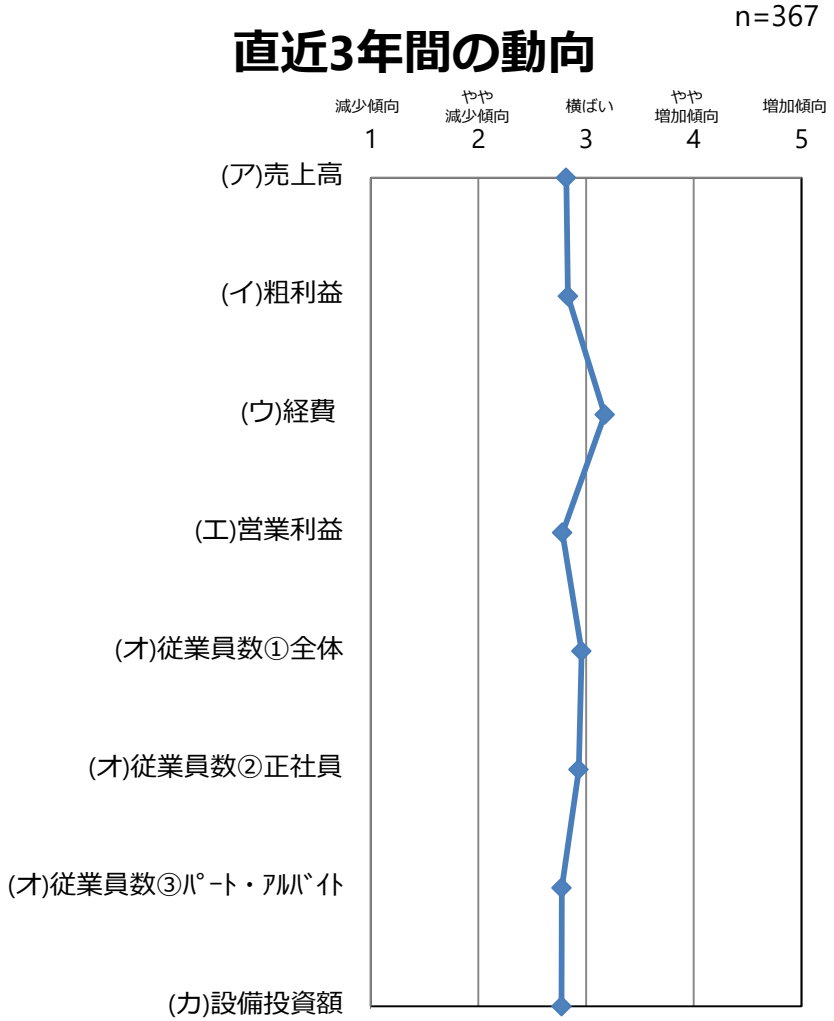
従業員のうち小平市内に居住している人の割合	47.8%
従業員の平均年齢	48.6歳
回答数	336

- 事業所動向調査回答企業数=377社
  - うち221社は従業員数10名未満

- 従業者
  - 約半数は小平市に居住

回答企業属性





- 回答事業者の業種
  - 建設業125社が最多の業種
  - 卸売り、小売業が64社で2位
  - 製造業は38社

- 経費の課題→やや高

積極的な経営を行っている企業

	0人	1～5人	6～10人	11～20人	21～100人	100～500人	500人以上	(空白)	総計
2. 建設業	0	7	1	5	1	13	0	0	14
3. 製造業	1	0	0	0	4	0	1	0	6
5. 運輸業、郵便業	0	0	0	0	0	1	0	0	1
6. 卸売業、小売業	0	2	0	0	0	2	0	1	3
8. 不動産業、物品賃貸業	0	2	0	0	0	2	0	0	2
9. 学術研究、専門･技術サービス業	0	3	1	0	0	5	0	0	5
10. 宿泊業、飲食サービス業	0	0	0	2	0	2	0	0	2
12. 教育、学習支援業	0	1	0	0	1	2	0	0	3
13. 医療、福祉	0	1	1	0	3	3	0	1	7
14. その他のサービス業	0	2	0	0	1	2	0	1	4
(空白)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	1	18	3	7	10	32	1	3	47

※積極的な経営を行っている企業の定義

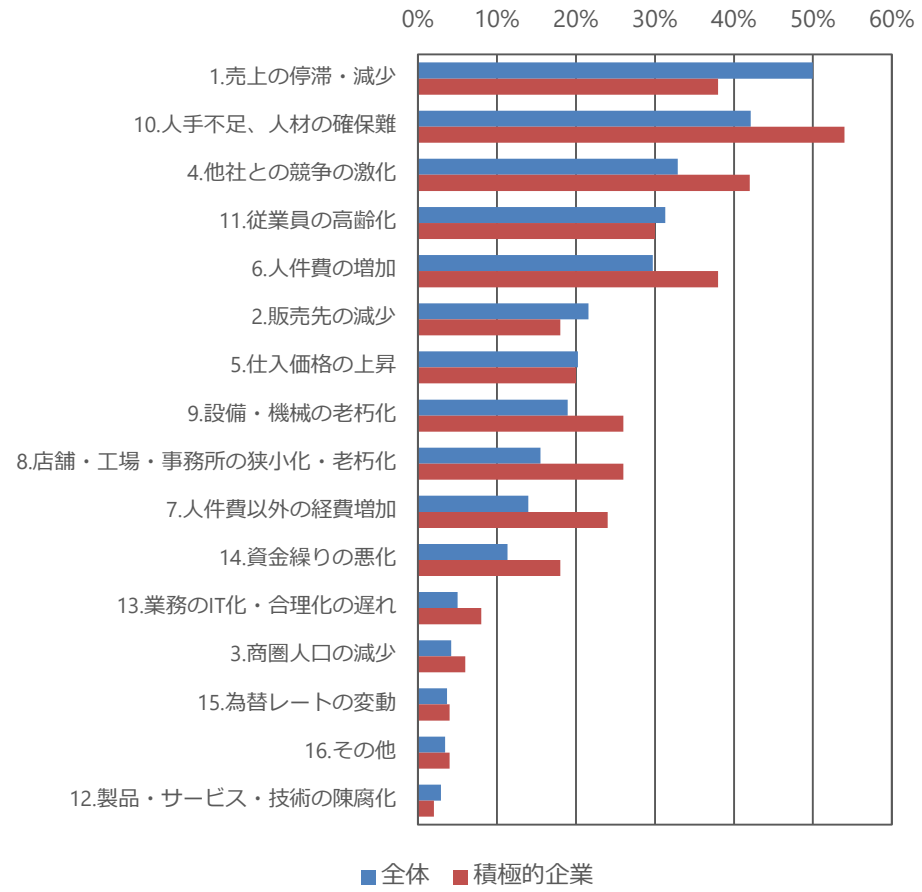
(イ) 小平市における新規顧客の開拓
(ウ) 隣接自治体における新規顧客開拓
(エ) 上記(イ)(ウ)以外の国内における新規顧客の開拓
(オ) 海外の新規顧客の開拓
(ケ) 新製品・サービスの研究・開発
(コ) 業務のIT化・合理化
(サ) 人材の採用・育成
(シ) 新店舗・新工場・研究開発拠点
(ス) 既存設備、建物・工場の更新
(セ) 産学連携による研究開発の実施
(ソ) Ｍ＆Ａによる企業買収
(タ) 新規事業の開発
の項目で平均3.5以上の企業

- アンケートから積極的な経営を行っている企業として50社を抽出※
  - 従業員数100人以上の企業と、従業員数1～5人の小規模な企業に積極的な企業が多い

経営課題について

事業経営上の課題

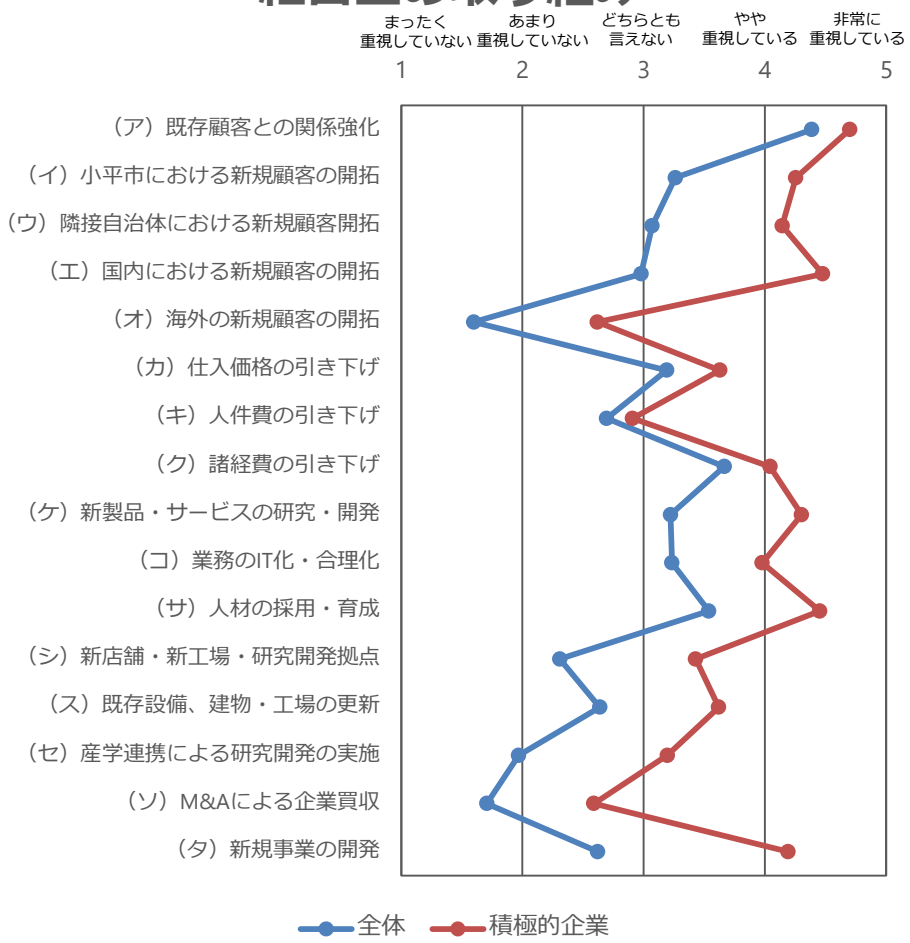
n=374



- 売上、人材確保→高
- 積極的企業では売上の停滞よりも人手不足がより大きな課題

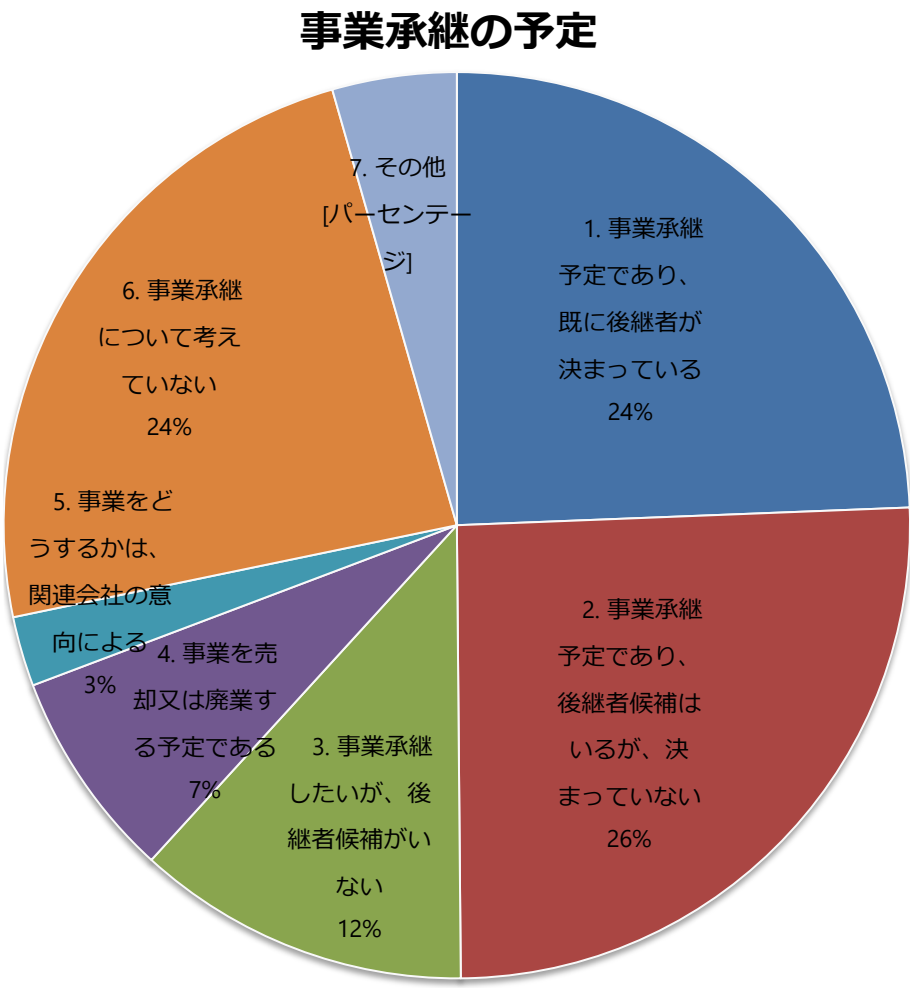
経営上の取り組み

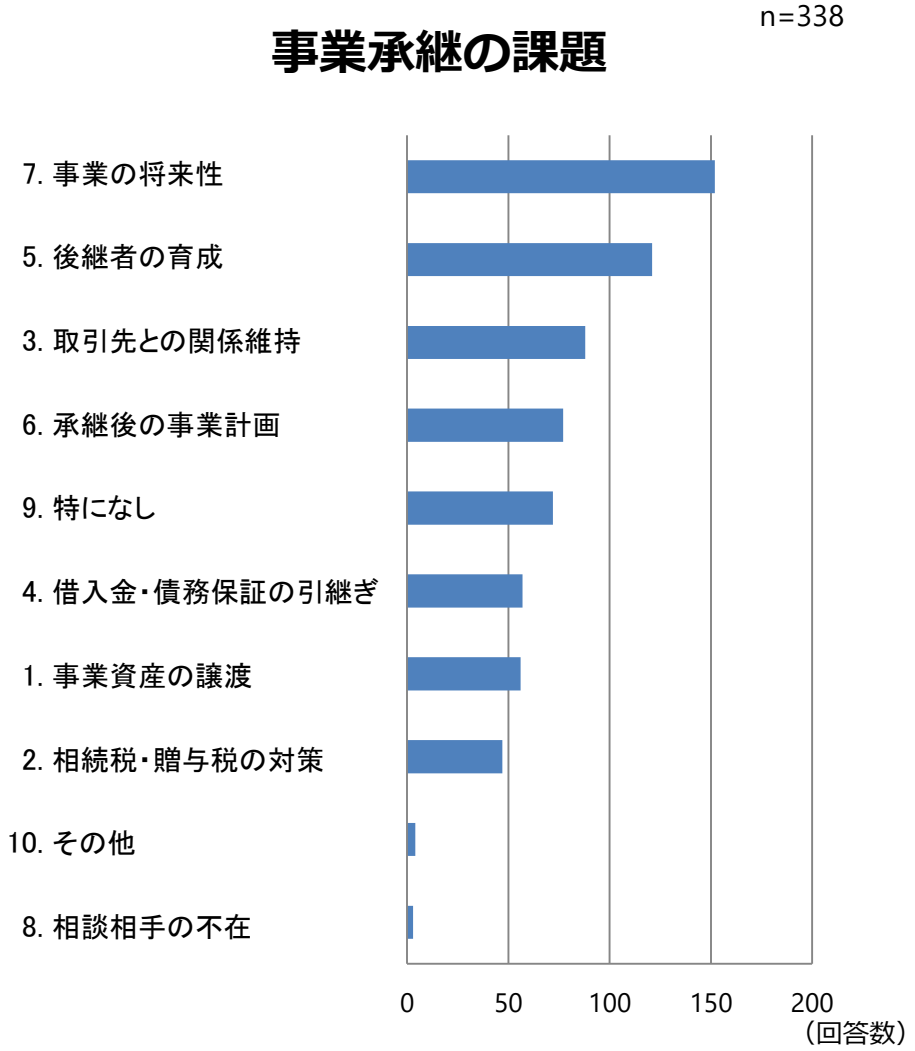
n=356



- 既存の顧客との関係強化
- 市内企業の開拓
- 経費引き下げ
- 海外展開、M&Aには消極的

事業承継



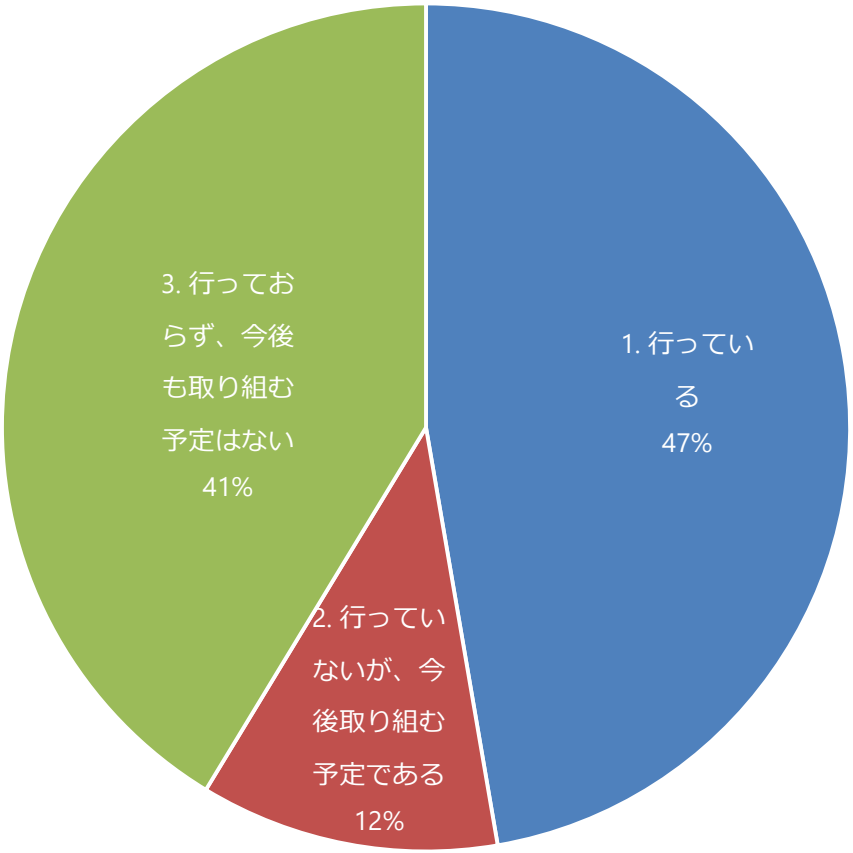


- 60%以上が事業承継の意志あり
- 19%が廃業予定もしくは承継したいが後継者がいない。

- 課題
  - 事業の将来性
  - 後継者の育成

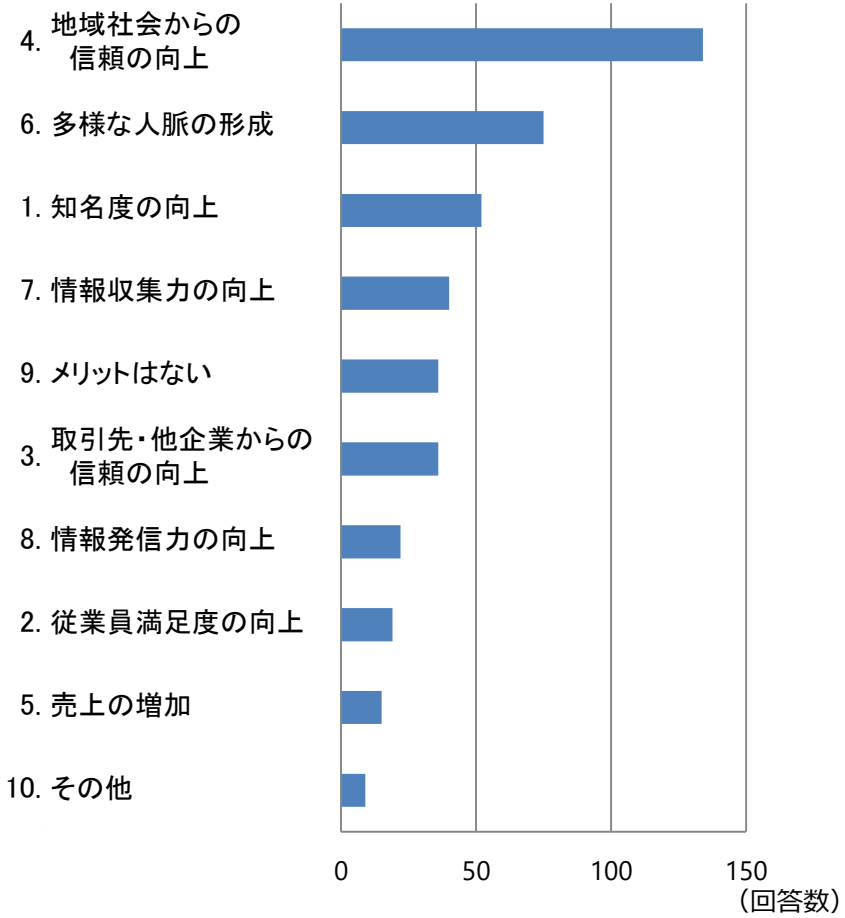
社会とのかかわり

社会貢献活動



CSRのメリット

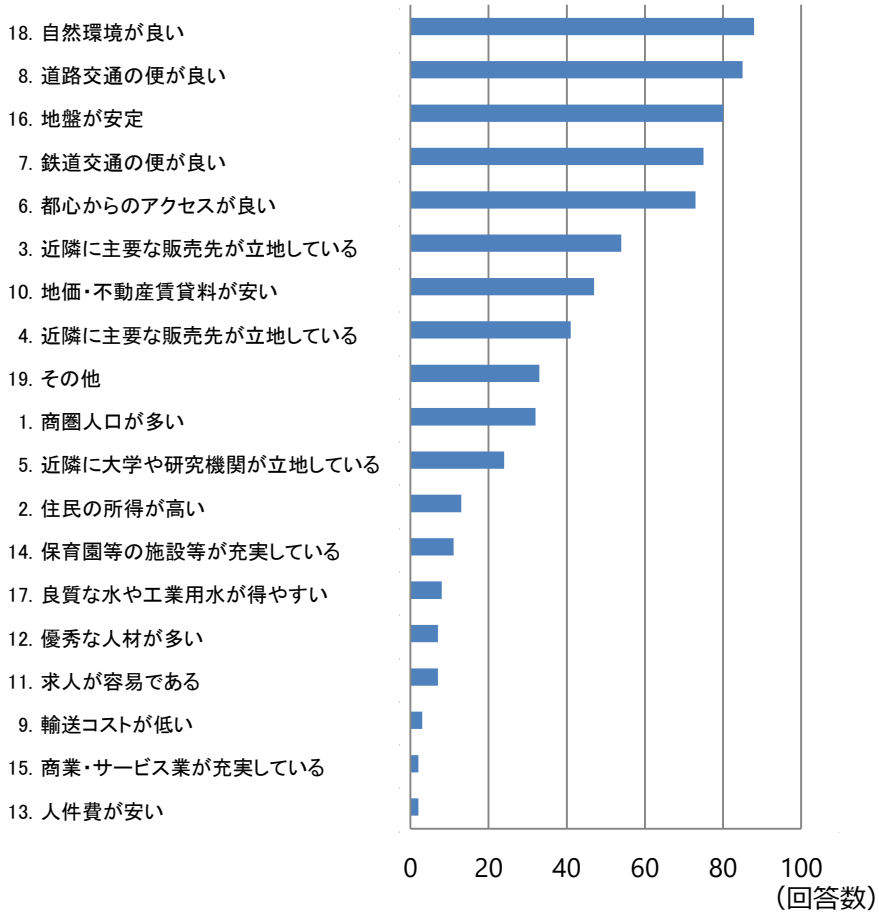
n=211



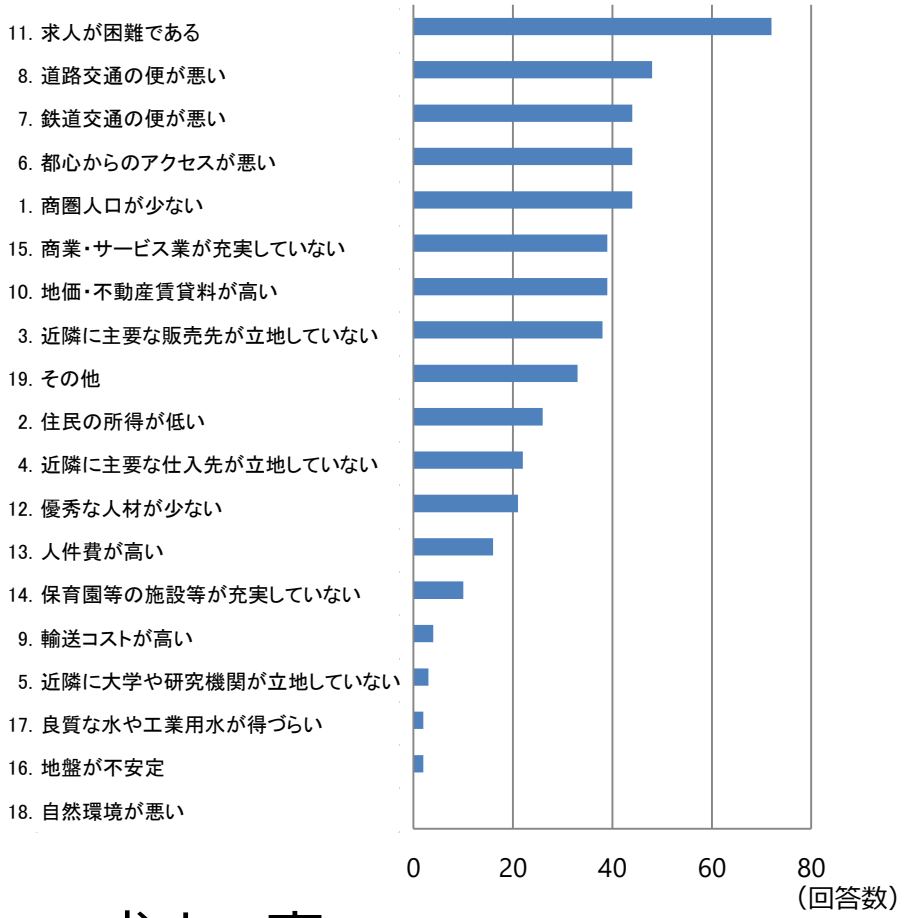
- 社会貢献活動→約60%の企業が関心がある
- 企業はCSRで地域社会とのつながりをめざす

小平市への立地意識

立地上の強み　n=304



立地上の弱み　n=260

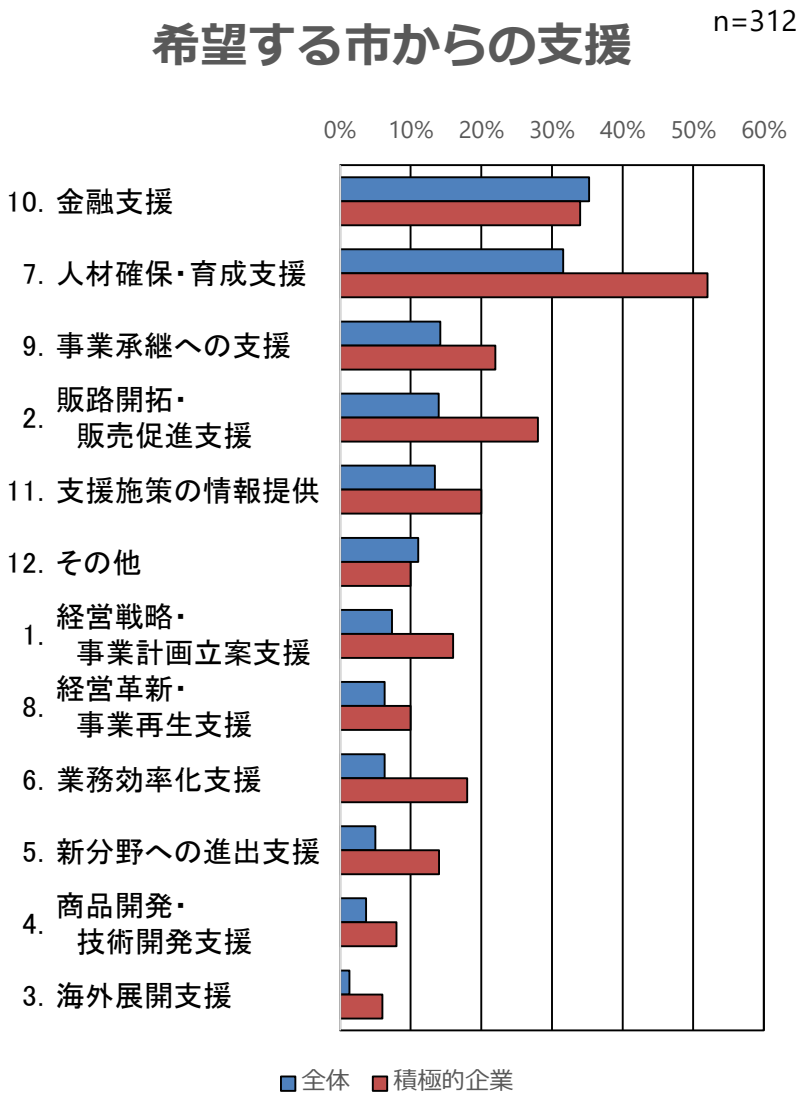


- 自然環境→高
- 人材確保→低

- 求人→高
- 企業は小平市への立地について深く意識していない

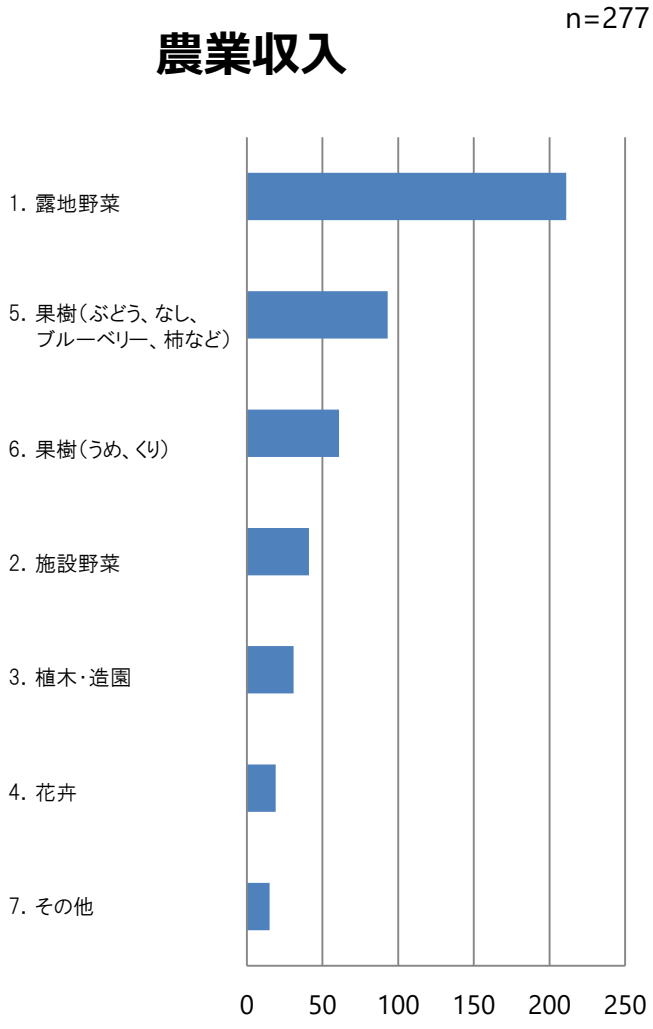
事業所動向調査まとめ

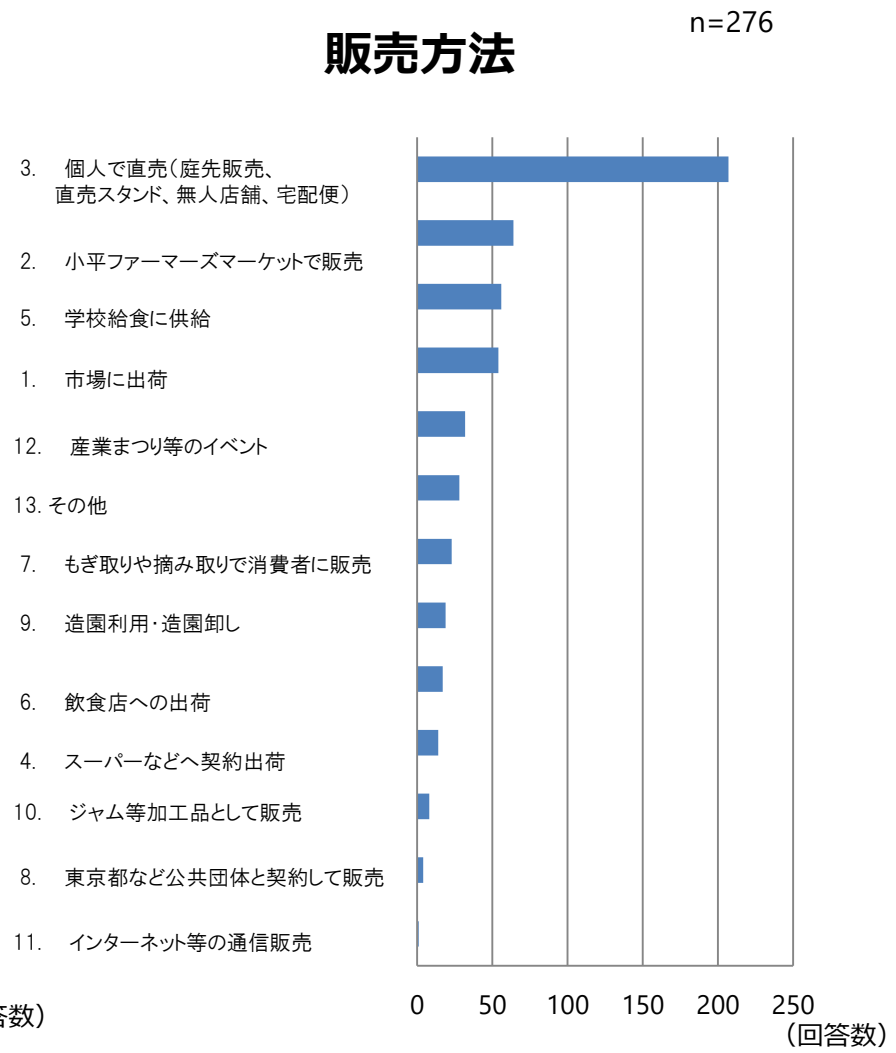
- 課題
  - 全ての業種で人手不足
  - 経営に積極的な企業が一定数存在している
  - 事業承継の課題
  - 小平市への立地を意識していない
- 市への希望
  - 金融支援と並んで人材確保・育成支援を希望
  - 積極的企業では、市への支援を強く望んでいる
  - CSRの仕組み、CSRに取り組める人材



3. 農家意向調査

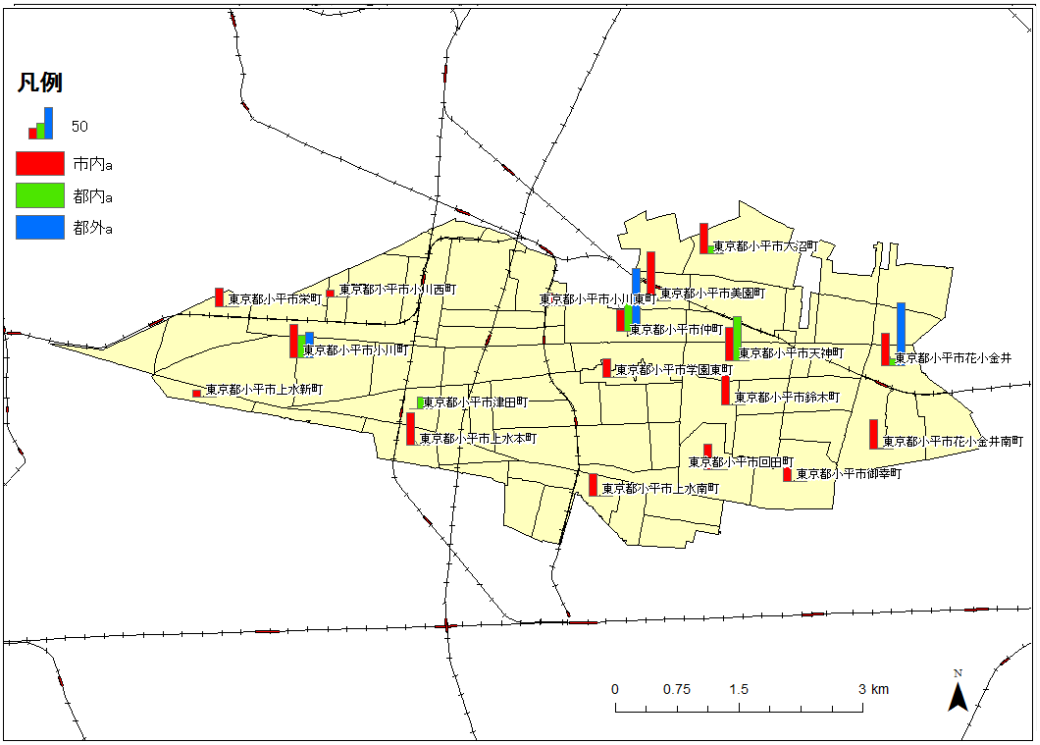
生産と販売





- 露地野菜と果樹生産が卓越
- 個人で直売が卓越、小平ファーマーズマーケットに出荷

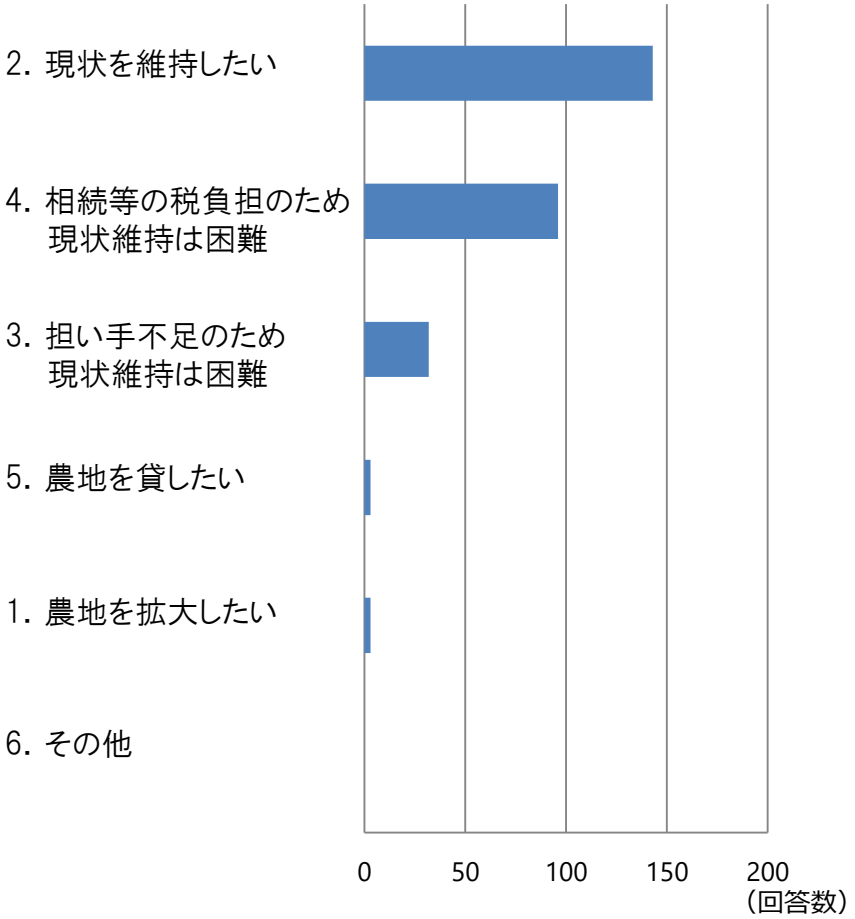
農地について



小平市における地域別農地面積

農地の方向性

n=277

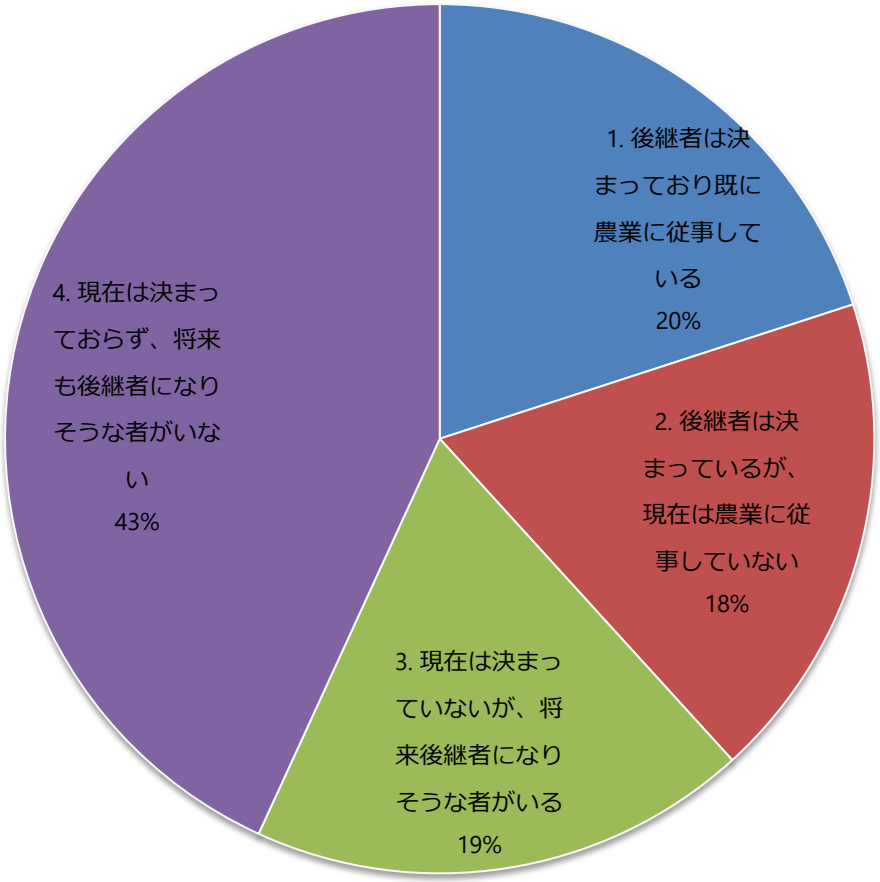


- 小川町の農地が多い
- 方向性は現状維持をめざす傾向

農業の担い手

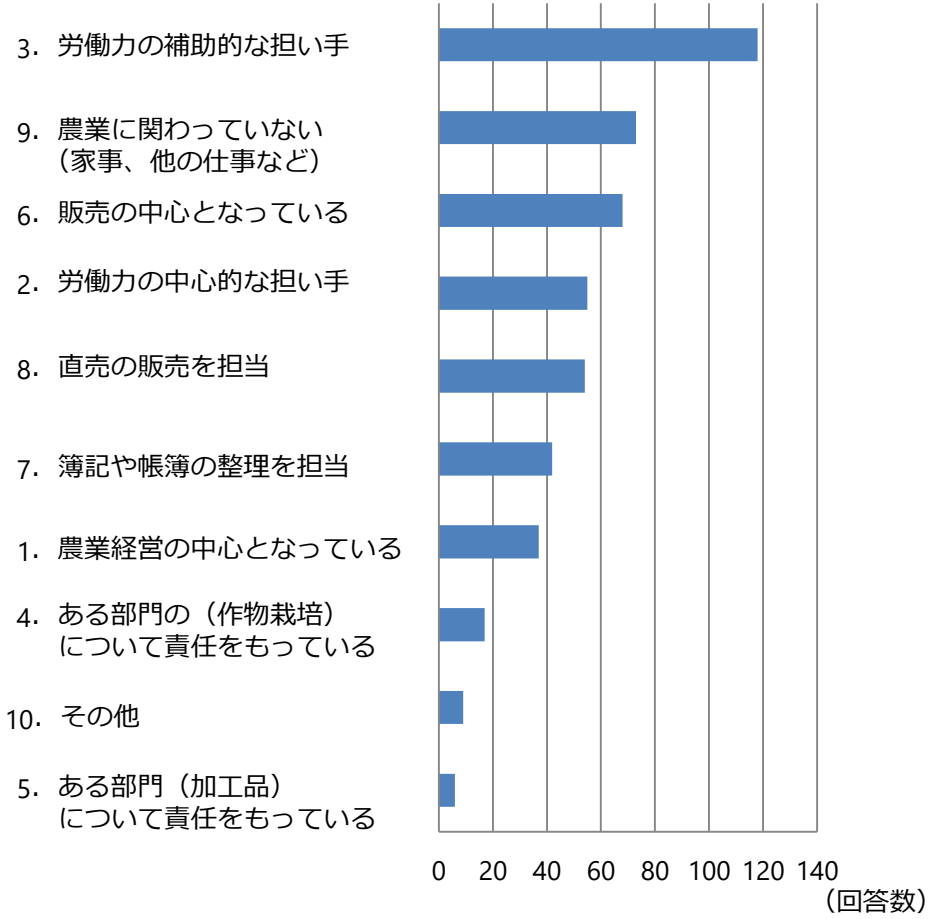
n=285

後継者



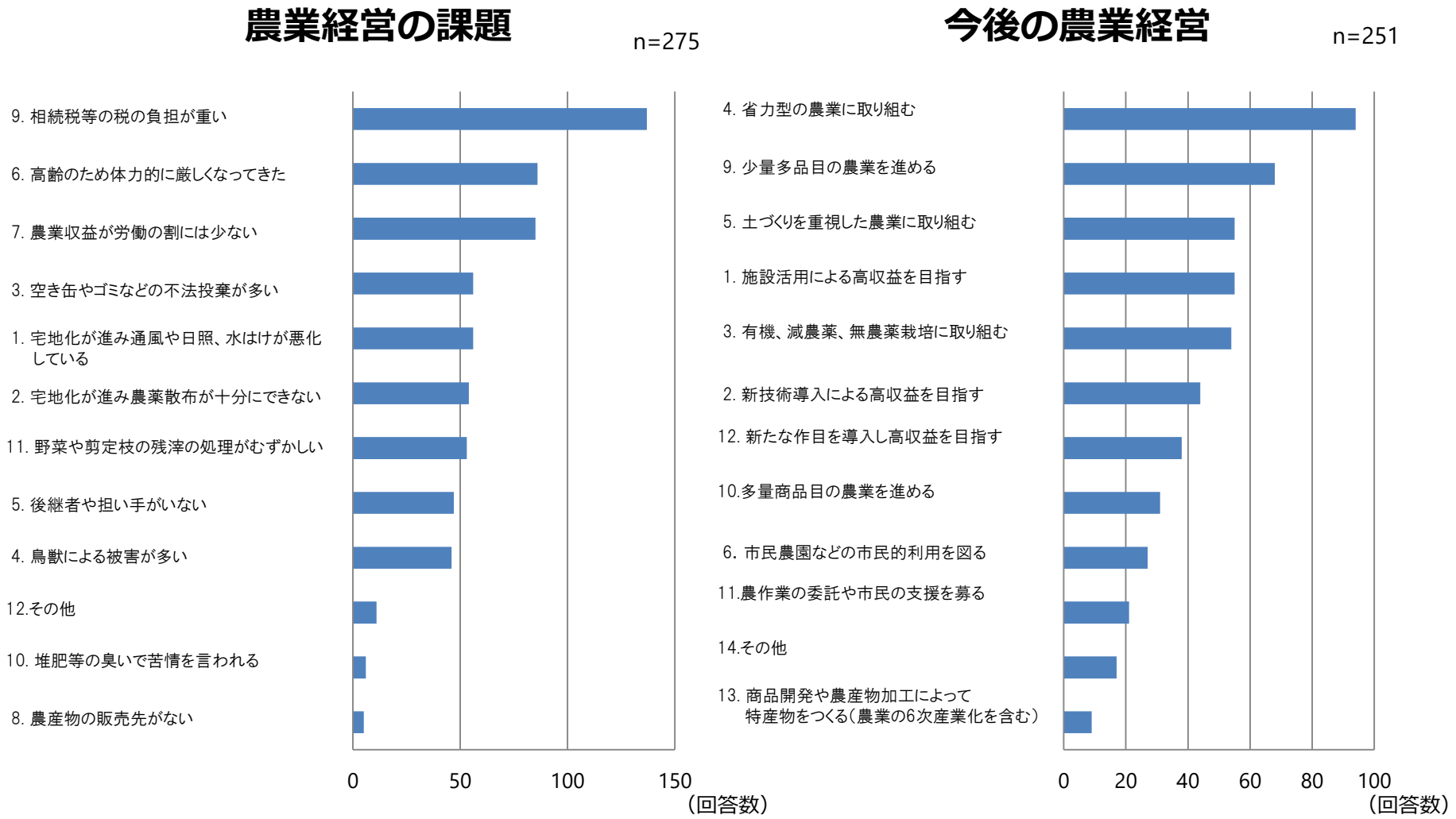
n=274

女性の役割



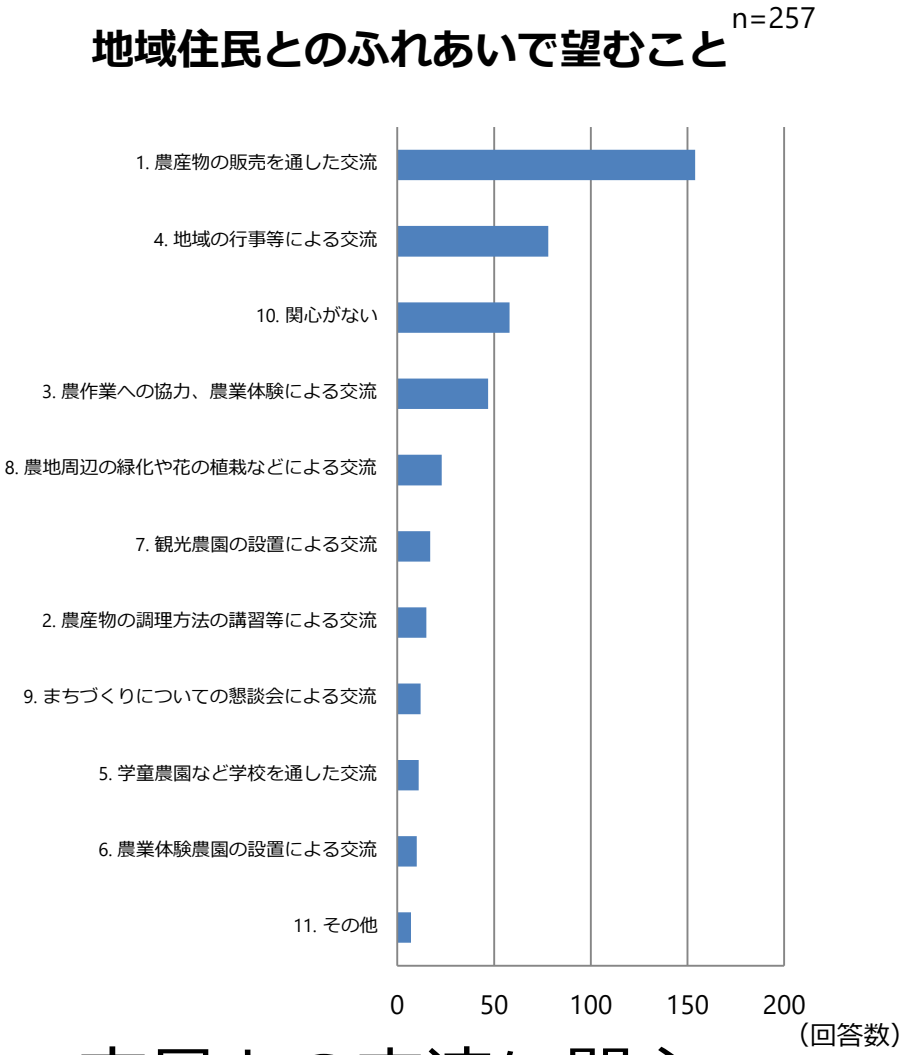
- 農業従事者の43%は後継者がいない
- 農家の女性は農業労働の補助を担当

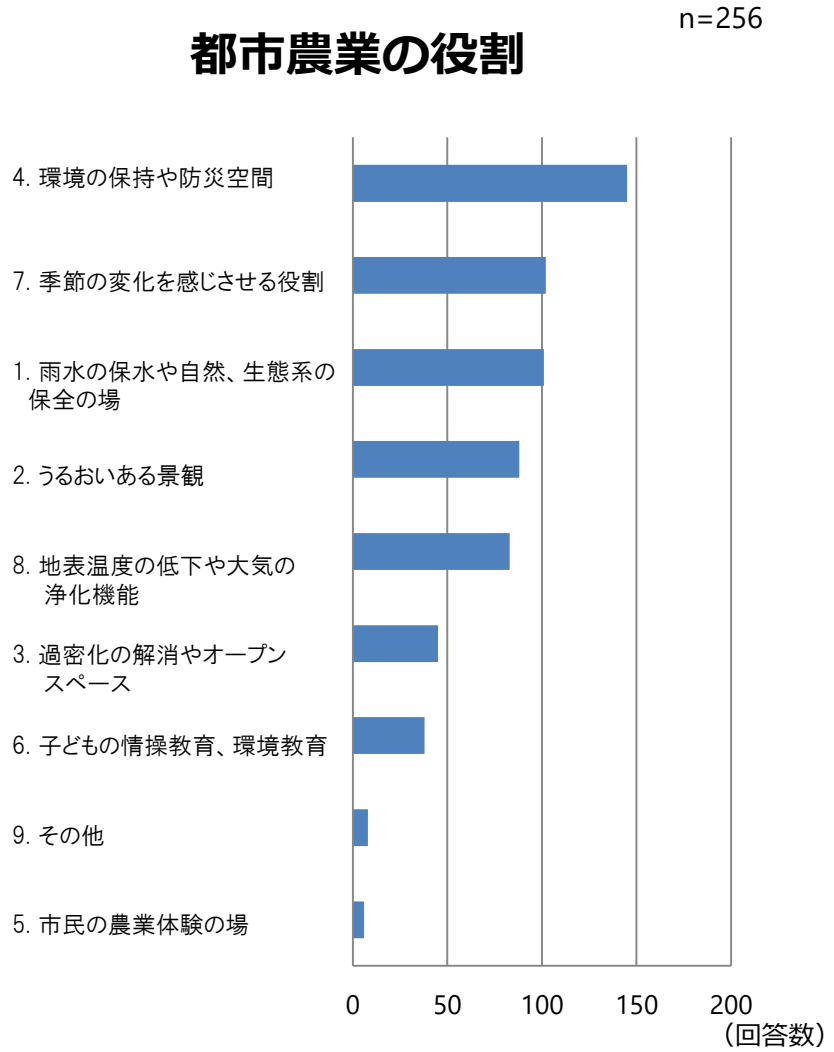
農業経営



- 農業経営の課題は税負担と労働力
- 省力、少量多品目の農業をめざす傾向

これからの都市農業

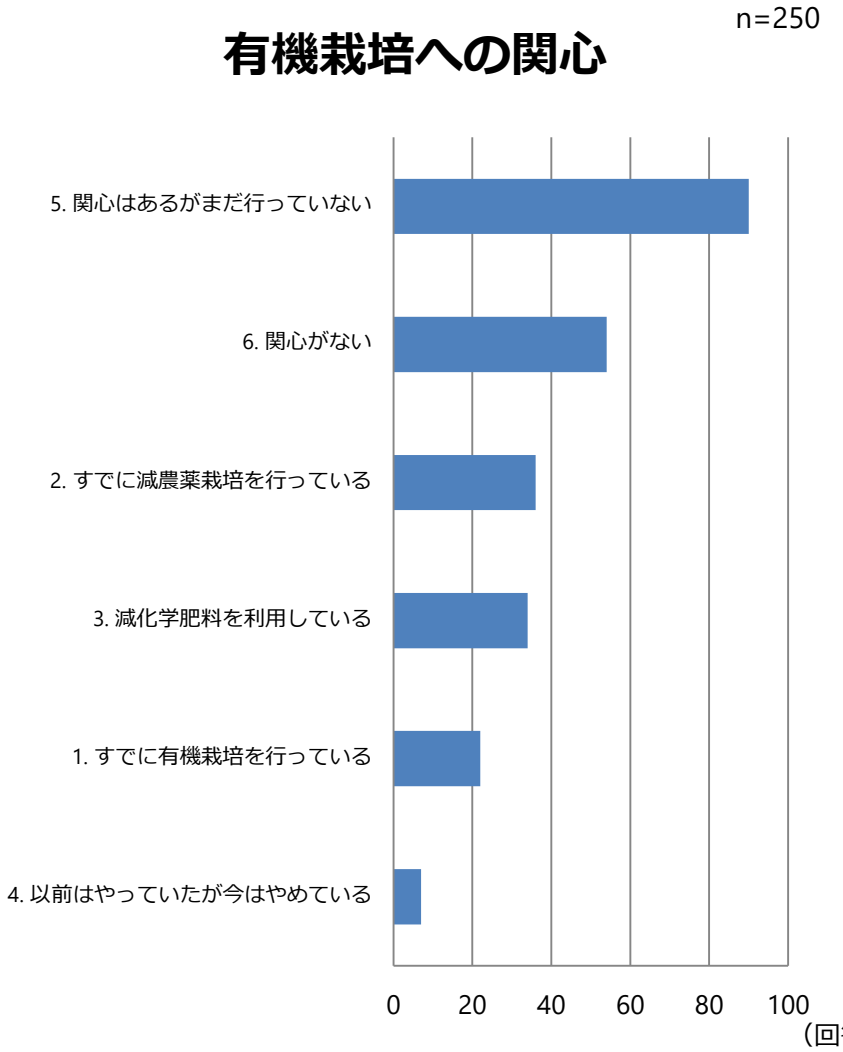


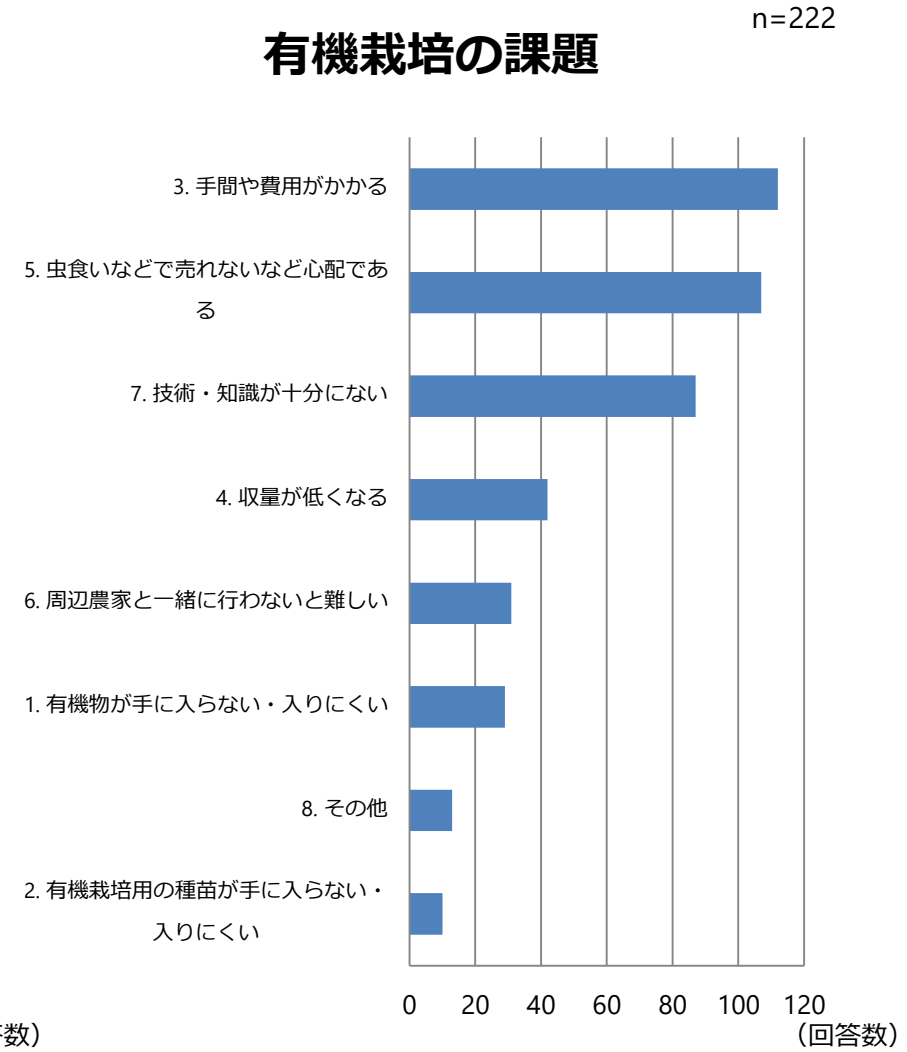


- 市民との交流に関心
- 一方、市民の農業体験の需要とはギャップ

- 都市農業の役割
  - 環境や生態系→高

有機農業について





- 有機農業、減農薬栽培への一定の関心

- 手間や費用の課題
  - 技術支援の可能性

農家意向調査まとめ

- 小平市民と農業
  - 小平市民の農や自然への関心
  - 市内の農地は身近な自然として重要

- 農業と市民の交流
  - 農家は農産物を消費してもらいたい

- 農業経営
  - 農家は農業所得の増加を望んでいる

4. ヒアリング結果

大手企業ヒアリング

- 市内の大手企業4社に実施
  - 部品製造3社、食品会社1社
- 小平市に立地するメリット、事業課題、CSRの質問を重視
- 大手企業の小平市立地のメリット
  - 特にない、「東京都」に立地するネームバリュー
- 課題
  - 業種を問わず人材不足
  - 事業所周辺の宅地化の進展によって操業しづらい状況が顕在化
- 企業と地域のつながり
  - 企業はCSR手法を模索している
  - 本業に関連する市とのかかわりや連携を希望している

中小企業ヒアリング

- 市内の中小企業10社に実施
  - 製造業3社、サービス2社、食品3社、建設業1社、運輸業1社
- 立地上のメリット
  - 特にない、創業の地として小平を重視している会社もある
- 課題と現状
  - 大企業と同様に工場周辺の宅地化による操業環境の悪化
  - 人材採用の課題をかかえている
  - 今までは行政の支援に頼らずに操業
- 企業と地域とのつながり
  - CSRについては、主にB to Cの会社が企業の知名度向上を目指してイベントに積極的に参加・企画している
  - CSRへの意欲はあるが、ノウハウがない

商店会ヒアリング

- 市内の6商店会を対象に実施
- 商店街の状況
  - 一部の商店街を除いて、空き店舗はチェーン店などで埋まる
  - 利用客数の多い花小金井駅や一橋学園駅などの駅前商店街では、若い商店主も入ってきている

- 高齢化と商店街の課題
  - 高齢で店舗経営が体力的に厳しい
  - 閉店後に2階に居住することでシャッター通り化
  - 商店街の発展を望む市民ニーズとの乖離

- 商店街の今後
  - 商店街の枠を超えた連携の試み

農家ヒアリング

- 市内農家12軒に実施
- 農家の課題
  - 周辺の宅地化
  - 野焼きができないため病気の作物の処理問題

- 所得について
  - ほとんどの農家は農業所得よりも不動産所得が多い
  - 不動産所得に頼らない農業経営を目指している

- 農業と観光
  - 体験農園や直売所を経営する農家→取り組みに積極的
  - 市場出荷を重視する農家→取り組みに消極的